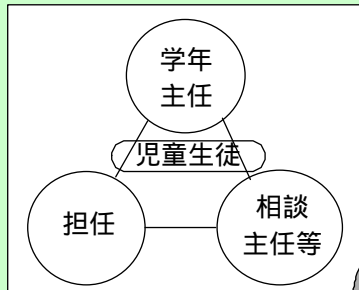


# 別室（保健室）登校 ー指導・援助のポイントー

指導・援助が、学級担任に任せられていませんか？

学校全体で組織的、具体的な対応が十分に行われていますか？



第1回目の会議の例

## ポイント1 早期の状況把握に努めます

緊急避難的な不登校児童生徒

きっかけとなった出来事がごく最近起こった可能性があり問題の背景と本人の内面理解が必要です。

長期化した不登校児童生徒

きっかけとなった出来事が特定しにくく、不登校の背景がつかみにくい側面があります。現在や未来に焦点をあて、できることから段階的に進めることが有効です。

複数の目で児童生徒の情報を多角的に集めましょう。

児童生徒の内面、問題の背景、友人関係、家族の状況等から援助ニーズを理解します。

「現実検討に目を向ける時間（時間稼ぎ）」が必要な場合もあります。

## ポイント2 アセスメントを行います

別室（保健室）登校の初期の段階は、現状を悪化させないレベルからの段階的・個別的支援計画による援助が有効です。

別室登校のスムーズな移行



- ・学級担任の取組で十分ですか？
- ・学年レベルで支援体制を組みますか？
- ・学校全体として取組が必要ですか？
- ・他機関との連携が必要ですか？

1時間の登校と約束したらそれを守ること  
「調子がよさそうだからもうすこしがんばろう」と勝手に決めないこと  
予定変更するときは、保護者と相談し理解を得ること  
教室の受け入れ態勢や学習の補充が可能か検討する

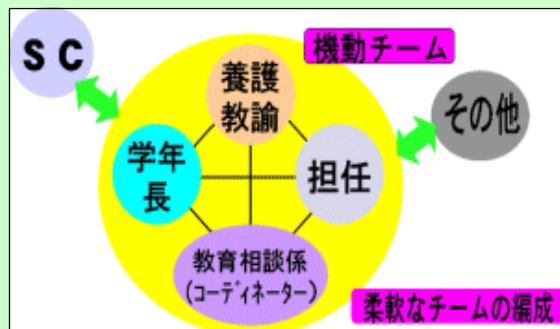
## ポイント3 チームによる指導・援助を行います

「迎えによってくれる友人」「車では登校できること」「別室での学習メニュー」「別室に来てくれる級友」等、**資源（子どもの役に立つこと、力になること）**を活用します。

いつ、どこで、誰が、どのように、どの程度の期間で指導・援助することがきるか検討します。

複数の職員による指導・援助体制を作ります。（役割を明確化します）  
チームは状況に応じて柔軟に対応します。

家庭との連携＝「こまめ」に「ちょっとした連絡」から信頼関係を。



チームによる指導・援助の例